

|          |              |     |         |     |   |
|----------|--------------|-----|---------|-----|---|
| 授業科目名・形態 | コミュニケーション技術Ⅱ | 講義  | 必修・選択の別 | 選択  |   |
| 担当者氏名    | 林 宏二         | 開講期 | 1年後期    | 単位数 | 2 |

### 【授業の主題】

支援する上では、利用者を中心としたチームケアの視点が非常に重要となる。そのためには、深い利用者理解とともに、他者との意思疎通能力と情報共有能力が備わっていなければならない。

本講では、コミュニケーション技術Ⅰを引き継いで、利用者の特性に応じたコミュニケーション方法を学ぶとともに、介護場面で協働する関係者とのコミュニケーション方法について学ぶ。また、情報を適切に共有するための記録や報告書の作成方法、会議の目的や方法、留意点についても学ぶ。

### 【到達目標】

- 1) 利用者の特性に応じたコミュニケーション方法について、障がいの違い（先天性脳損傷型・後天性脳損傷型・非脳損傷型）から理解できる。
- 2) 介護におけるチームのコミュニケーションについて、記録の書き方、会議の仕方などから理解できる。

### 【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 コミュニケーション障害の理解
- 第 3回 コミュニケーション障害のある利用者への対応
- 第 4回 第 6～11 回授業の準備①（説明と演習）
- 第 5回 第 6～11 回授業の準備②
- 第 6回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際①（高次脳機能障害）
- 第 7回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際②（失語症）
- 第 8回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③（構音障害）
- 第 9回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際④（認知症・若年性認知症）
- 第 10回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤（視力・聴力障害）
- 第 11回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥（知的障害・精神障害）
- 第 12回 介護におけるチームコミュニケーションの理解
- 第 13回 介護における記録の意義と目的
- 第 14回 記録の書き方と留意点、介護記録における個人情報保護
- 第 15回 報告・連絡・相談の方法と留意事項、会議の意義・目的・方法

### 【授業実施方法】

講義とグループによる調査研究・発表で行う。

### 【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

### 【主な関連する科目】

介護の基本Ⅰ～Ⅵ、介護過程Ⅰ～Ⅴ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ、日常生活支援技術演習Ⅰ～Ⅹ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、認知症ケア論Ⅰ・Ⅱ など

### 【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第3版』中央法規出版。

### 【参考文献】

授業の中で紹介する。

### 【成績評価方法】

平常点 10%、小テスト 10%、レポート 10%、期末試験（筆記） 60%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

### 【学生へのメッセージ】

実践現場を意識した予習・復習と授業におけるグループワークの体験が相乗することで学習効果は何倍にも膨らみます。主体的・積極的に取り組んでください。